

中越パルプ工業株式会社



この用紙は「竹紙100ホワイト」
104.7g/㎡です。竹の有効活用は
森林や里山、生物多様性保全、
地域経済活性化に役立ちます。



INTEGRATED REPORT 2020

中越パルプ工業株式会社
統合報告書

CHUETSU PULP & PAPER Co.,Ltd.

With the globalization of the economic environment, we at Chuetsu Pulp & Paper Group continue to set a high value on human resources in production, as we attempt to permanently develop a strong company that is capable of succeeding in international competition.



人体や自然環境に有害
となるVOC(揮発性有
機化合物)を発生しない
インキを使用しています。

中越パルプ工業グループは、企業戦略を 確実に実施し、永続的な発展を目指しています。

私たちは、社会に貢献し信頼される企業を目指し、行動力と対話に重点を置いた取り組みを展開しています。地域に根差した企業として、地産地消を推進し、地域の方々とともに力を合わせ、地域の社会問題解決に取り組んでいます。本業を通じて、社員の一人ひとりが生物多様性保全・二酸化炭素発生抑制・廃棄物の発生抑制を意識した生産活動を行っています。

Top Message P.4-5

中越パルプ工業株式会社 代表取締役社長 植松 久

● 経営・事業戦略

Management Philosophy / History
経営理念／沿革 P.6

Business Summary
事業概要 P.7

Value Creation Process
価値創造プロセス P.8-9

“Forward 304” Mid-term
Three-Year Plan Progress Report
中期3ヶ年計画
「フォワード304」経過報告 P.10-12

Risk and Opportunity
リスクと機会 P.13

General Business Condition in 2019
2019年度事業概況 P.14-16

CSV Strategies:
Bamboo Paper, Satoyama Monogatari
CSV 戦略
「竹紙」「里山物語」 P.17-19

Examples of Actions Based on ISO26000
ISO26000に基づく
取り組み事例 P.20-21

● 企業統治

Corporate Governance
コーポレート・ガバナンス P.22-23

● 環境への取り組み

Action for Environment
環境への取り組み P.24

Promotion of Global Warming Countermeasures
地球温暖化対策の推進 P.25

Promoting the Growth
and Protection of Forest Resources
森林資源の育成と保護の推進 P.26-27

Promoting the Recycling of Paper Resources
紙資源のリサイクルの推進 P.28

Promoting the Reduction and Effective Use of Waste
廃棄物の削減と有効利用の推進 P.29

Compliance with Environmental Laws and
Strengthening of Environmental Management System
環境法令の遵守及び
環境管理体制強化の推進 P.30

Promoting Optimization of Chemical Substance Use
化学物質使用の適正化の推進 P.31

● 生物多様性への取り組み

Efforts Towards Conservation of Biodiversity
生物多様性保全の取り組み P.32-33

Employee Column:
Visiting Satoyama and Satoumi
従業員コラム 里山・里海巡り P.34-35

● 働く環境への取り組み

Creating a Work-friendly Environment
Where Individuality Can Flourish
働きやすさと個人の能力を発揮する
環境を整える取り組み P.36-37

● 地域との共生

Symbiosis with the Local Communities
地域との共生 P.38

Talks with Stakeholders
ステークホルダーとの対話 P.39

Financial/Non Financial Data
財務・非財務データ推移 P.40

Efforts for Sustainable Development Goals
SDGsに関する取り組み P.41

Company Profile
会社概要 P.42

Locations and Facilities
事業所一覧 P.43



中越パルプ工業株式会社

CHUETSU PULP & PAPER CO., LTD.

Top Message

中越パルプ工業グループは、
木という再生可能な資源を活用し、
現代社会の抱える課題解決に
取り組んでまいります。

By using trees, a renewable resource,
the Chuetsu Pulp & Paper Group focuses its efforts on solving
the problems faced by modern society.

—— 持続可能な社会の実現に向けて ——

中越パルプ工業グループは、木という再生可能な資源を活用した事業を行っています。紙パルプ製造事業を基に、原料調達ソースを活かし、主に国産材の未利用間伐材を燃料とする木質バイオマス発電設備によるエネルギー事業や、「竹紙」と「里山物語」に代表される環境配慮型製品の提供により、森林資源の有効利用を進め、里山保全と森林価値の向上に努めてまいりました。

また、紙パルプ製造技術の新たな活用として、「nanoforest[®]」ブランドとして開発を進めているセルロース・ナノファイバー（CNF）や、紙と合成樹脂を複合させた新素材「マップカ（MAPKA[®]）」シートの製造に取り組み、使い捨てプラスチック問題や地球温暖化など、地球規模の環境問題解決を目指しています。

紙は私たちの生活にとっても身近な素材として存在してきましたが、その役割は多種多様であり、またライフスタイルの変化に伴い、求められる機能も変わり続けています。中越パルプ工業グループは「紙だからこそできること。」を追求し、紙の優れた特性を活かした新しい価値を皆さまに提供できるよう、企業戦略の実行に取り組んでまいります。

「愛され信頼される企業」を目指し、紙づくりを通して現代社会の抱える課題解決に迅速かつ的確な実行力をもって取り組み、持続可能な社会の実現に貢献してまいりますので、一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 植松 久

経営理念

Management Philosophy

私たち中越パルプ工業グループは、グローバル化していく経済環境の中で、永続的に発展していくため、ひたむきに人を大切にしたものづくりに努め、国際競争を勝ち抜く強い企業創りを目指します。

1

愛され信頼される
企業に

コンプライアンスに徹し真摯で誠実な企業活動を基本とし、品質を第一に弛まざる技術革新により常に顧客満足を希求するとともに、地域社会との共存共栄を図り、誰からも愛され信頼される企業を目指して努力を続けてまいります。

2

環境と社会に
貢献する企業に

私たちは、省資源や省エネルギーの取り組みを継続し、リサイクル資源の有効活用に努め、地球環境に配慮した生産活動を通じて循環型社会の確立、豊かな文化社会の発展に貢献するとともに、社会の様々なニーズに積極的に対応して、安定的により良い製品とサービスを提供します。

3

向上心あふれる
働き甲斐のある会社

エネルギーに革新に取り組み、不撓不屈の精神であらゆる困難にも果敢に立ち向かい、会社の明るい未来のために全ての社員が力を合わせ、国際競争を勝ち抜く収益性、健全性を備えた働き甲斐のある会社をつくりまします。

沿革

History



1947年

高岡製紙株式会社として設立

1949年

中越パルプ工業株式会社に社名変更

能町工場開業(現・高岡工場)

1954年

川内工場開業

1955年

砺波製紙株式会社設立(現・生産本部二塚製造部)

1956年

東京証券取引所市場第一部に株式を上場

2009年

営業部門と一部機能を除き本社機能を富山県高岡市に移転し、高岡本社として業務を開始

2013年

川内工場 唐浜メガソーラー発電所完成

2015年

川内工場 木質バイオマス発電設備完成

2016年

監査等委員会設置会社へ移行

2017年

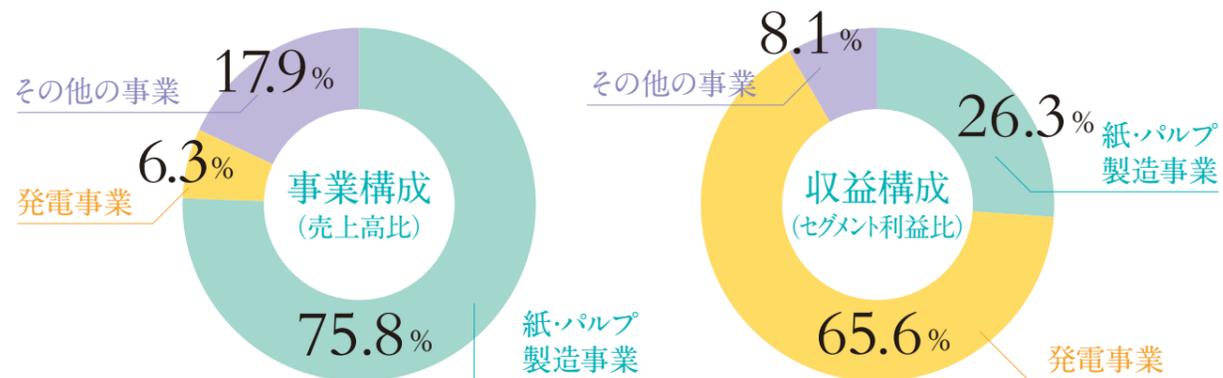
川内工場内にセルロース・ナノファイバー第一期商業プラント完成

ナノフォレスト事業部新設

事業概要

Business Summary

紙・パルプ製造事業は、中越パルプ工業グループの事業構成(売上高比)では約8割を占めています。安定した売上高が見込まれる一方、収益性は低く、収益構成では約3割程度です。発電事業は事業構成では1割未満ですが、収益構成で約7割と安定した収益力で中越パルプ工業グループを支えています。その他は、紙・パルプ製造事業を補助する事業のほか、ナノフォレスト事業やマブカ事業といった、今後成長が見込まれる新規事業を営んでいます。



紙・パルプ製造事業

事業の内容	主要製品	会社名
紙・パルプ製造	新聞用紙、印刷用紙、包装用紙、特殊紙、板紙および加工品、パルプ	中越パルプ工業(株)、三善製紙(株)、O&C アイボリーボード(株) (会社総数3社)

発電事業

事業の内容	主要製品	会社名
発電事業	発電事業	中越パルプ工業(株) (会社総数1社)

その他の事業

事業の内容	主要製品	会社名
ナノフォレスト事業	セルロース・ナノファイバー関連製品	中越パルプ工業(株) (会社総数1社)
	-	O&C ベーパーバッグホールディングス(株) (会社総数1社)
紙加工品の製造・販売	紙袋、紙管、段ボール	中越パッケージ(株)、中部紙工(株)、王子製袋(株)、王子包装(上海)有限公司、中央紙工(株)、(株)楠見製袋所、Japan Paper Technology(Viet Nam) Co., Ltd.、Japan Paper Technology Dong Nai(VN)Co.,Ltd. (会社総数8社)
	ノート、その他紙製品	(株)文運堂 (会社総数1社)
造林・緑化事業および薬品製造	造林、緑化事業、排水処理薬品他	中越緑化(株)、(有)南薩緑化センター、中越物産(株) (会社総数3社)
植林事業	-	Acacia Afforestation Asia Co.,Ltd. (会社総数1社)
巻取原紙用紙管加工	-	九州紙管(株) (会社総数1社)
紙断裁選別包装	-	中越ロジスティクス(株)、中越物産(株)、石川紙工(株) (会社総数3社)
機械設備設計施工・修理	-	中越テクノ(株) (会社総数1社)
紙パルプおよび原材料他輸送	-	中越ロジスティクス(株)、中越物産(株) (会社総数2社)
木材チップの製造・仕入・販売	木材チップ	中越緑化(株)、中越パルプ木材(株)、OCMファイバートレーディング(株) (会社総数3社)
保険代理業	-	共友商事(株) (会社総数1社)
産業廃棄物処理	-	エヌシー共同開発(株) (会社総数1社)
土木建築請負	-	中越ロジスティクス(株) (会社総数1社)
マブカ事業	マブカ関連製品	中越エコプロダクツ(株) (会社総数1社)

価値創造プロセス

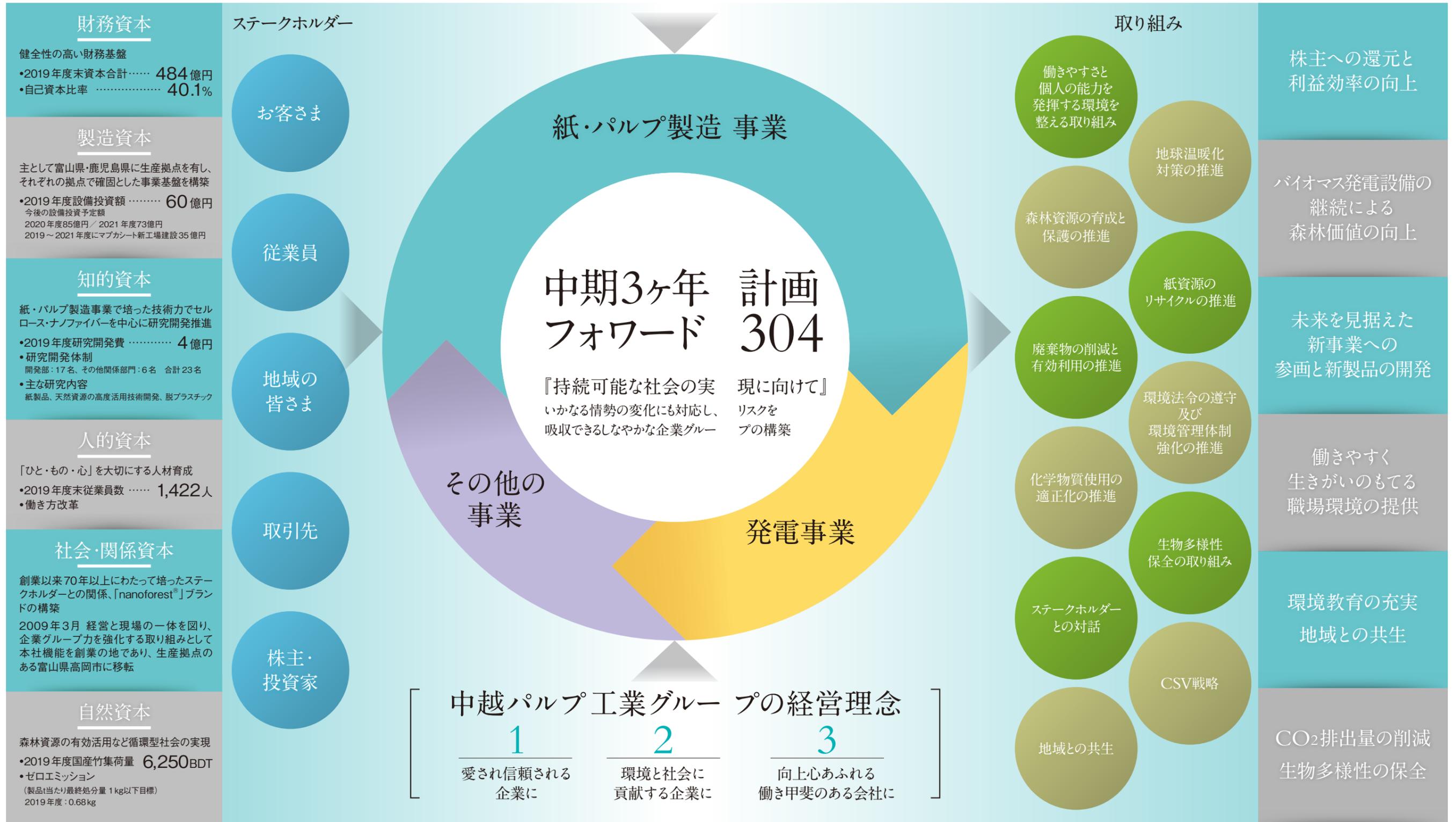
Value Creation Process

中越パルプ工業グループでは、健全性の高い財務資本、生産拠点などの製造資本、技術力や研究開発力などの知的資本、多彩な人的資本、長年にわたって培った社会関係資本、森林資源などの自然資本を重要な経営資源として捉えています。

6つの資本

[重要課題の抽出]

社会的価値の創出



中期3ヶ年計画 「フォワード304」経過報告

“Forward 304” Mid-term Three-Year Plan Progress Report

紙パルプ事業を取り巻く環境は、電子媒体へのシフトや少子・高齢化による構造的問題のため、今後も一層厳しい情勢が予想されます。また、年の初めから新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受けて、外国人観光客の激減によるインバウンド効果の喪失、緊急事態宣言発令による外出自粛や経済活動の低迷、さらには第32回オリンピック競技大会(2020/東京)、東京2020パラリンピック競技大会が1年延期されるなど、個人、企業を問わず社会全体に大きな影を落としています。

このような状況のなか、中越パルプ工業グループにとって、2020年度は中期3ヶ年計画「フォワード304」の最終年度にあたります。事業領域の選択と創造により、企業価値向上の実現を基本方針として、営業利益30億円、ROE4%の収益基盤を確立するため、総力を挙げて各事業戦略に基づく施策を実施していきます。

1 グループ事業領域の再構築 Restructuring the Group Business Domain

紙・パルプ製造事業を取り巻く環境は電子化だけではなく、働き方改革や新型コロナウイルス感染症による影響で、ますます厳しい状況になっています。販売面では市場動向を的確に把握し、状況の変化に迅速に対応していきます。

海洋プラスチック問題に端を発した脱プラスチックへの意識が高まるなか、使い捨てプラスチック代替需要獲得のため、高板・加工原紙事業における食品容器用途への展開や新規分野への参入を強力に進めながら、収益力のある体制を構築していきます。

2 合弁事業の早期稼働 Joint Venture Early Stage Operation

パウダー状に粉砕したセルロース・ファイバーを主として、合成樹脂を混合した新素材「マブカ(MAPKA®)」。当社高岡工場内に、そのシートを製造する工場の建設を2021年春の稼働に向けて工事を進めています。世界的規模で海洋プラスチックごみやマイクロプラスチックによる環境汚染が問題となっている今、ポストプラスチック素材としての地位を確立し、食品トレー向けへの普及拡大に向けて、取り組んでいきます。

計画概要

マブカシート生産能力：年間12,000t
投資総額：約35億円
鉄骨2階建て建屋、延床面積：6,612㎡
建築面積：5,530㎡、敷地面積：8,450㎡

特に本プロジェクトにおいては、プラスチック問題や石油由来の資源の削減、温室効果ガスの排出抑制などの環境、気候変動問題といった観点からだけでなく、食品ロス問題の取り組みとして長期保存可能な酸素バリア性を有するマブカシートの製造を行い、地域農産物を使った食材向けに提供することで、地域創生にも貢献していきたいと考えています。



マブカ製造工場全景

3 ナノフォレスト事業展開 Nanoforest Business Development

音響機器や卓球ラケット、和楽器への採用など、当社のセルロース・ナノファイバー(以下CNF)「nanoforest®」は、さまざまな分野での利用が進んでいます。CNF樹脂製品の展開・強化とともに、CNFの応用分野の拡充と営業展開で、事業基盤の早期確立を目指していきます。

ナノフォレスト事業展開においては、高岡工場内に高機能セルロース・ナノファイバーパイロットプラント建設計画について、2019年4月から機器選定、プラント詳細設計の取り組みを進めてきましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、設備選定テストなどで遅延が発生、また国内外の経済活動の停滞によりスケジュールの見直しを進めています。今後は開発品に対する要求レベルの高度化も予想されることから、建設計画を再考しました。高岡工場に建設予定の新建屋の着工時期を遅らせ、設備選定の充足、強化を図り、高機能CNFの高グレード化、低コスト化に取り組んでいきます。サンプル展開開始時期については、川内工場の第一商業プラントにテスト機を設置し、検証をかねて高解繊CNFのサンプル製造を行うことで当初計画時期(2021年)に遅れが生じないように対応し、当社CNFブランド「nanoforest®」の商品展開を強力に押し進めていきます。

計画概要

高岡工場内 生産能力：年間約60t
投資総額 約24億円
稼働予定 2023年度内
①疎水化CNF「nanoforest-M」
②高解繊CNF「nanoforest-S」
③CNF100%成形体「nanoforest-CMB」



nanoforest-MB

4 発電事業の安定操業継続 Continuous Stable Operation of Power Generation Facilities

当社の木質バイオマス発電事業は、未利用材や間伐材を使用するクリーンな発電事業で、再生可能エネルギーの有効活用や地域における雇用創出など、地球規模での環境保全、地域社会への貢献に寄与しています。当社が長年にわたり培った木材資源活用のノウハウを活かして、木質バイオマス燃料のさらなる安定集荷による発電事業の安定操業を維持し、収益確保に取り組んでいきます。



川内工場・木質バイオマス発電設備

中越パルプ工業グループは、環境問題への対応、社会、コーポレート・ガバナンス体制の取り組みを一層強化し、紙を創造する技術を活かした新素材の開発、森林資源の活用、再生可能エネルギーの利用促進、健康経営の推進など、多様な観点からSDGs(持続可能な開発目標)の実現に向けて、取り組んでいきます。

※「MAPKA®」は株式会社環境経営総合研究所の登録商標です。
※「nanoforest®」は当社が製造したCNFの登録商標です。

5

不動産の有効活用 Effective Use of Real Estate

東京本社社屋（東京都中央区銀座）は1956年以来、長きにわたり当社の本社事務所として活用してきました。この度ビル本体の老朽化が進んだことや不動産の有効活用のため、現在の社屋を解体し、新社屋を建設することとしました。新社屋は2025年以降完工予定です。東京本社機能のほか、事務所や店舗のテナントビルとして有効活用していきます。



現在の東京本社社屋

「フォワード304」事業戦略ロードマップ

	2018年度				2019年度				2020年度				2021年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
パルプ事業 拡大	ラインナップ拡充に向けて設備設置		稼働開始											
ナフォレスト 事業 拡大・発展	高機能CNFパイロットプラント建設計画												2020年9月より MBサンプル販売開始	
合併事業 への参画	合併会社 設立		食品トレイ事業「マブカ(MAPKA®)」 製造設備 設計・検討				2019年10月着工、2021年春稼働							
不動産の 有効活用	検討								実行					

フォワード304 連結営業利益 経過報告

営業利益目標 2017年度実績対比



リスクと機会

Risk and Opportunity

中越パルプ工業グループの売上高の8割を占める紙・パルプ製造事業は、おおむね内需型産業であり、国内景気の影響を大きく受け、紙の国内需要についてはすでに減少傾向にあります。当該リスクへの対応を喫緊の課題およびビジネスチャンスとして認識して、中期3ヶ年計画「フォワード304」を計画しました。



原材料購入価格の変動リスクに対して、王子ホールディングス株式会社、三菱製紙株式会社との合併会社のOCMファイバートレーディング株式会社を通して、製紙事業の主原料である輸入木材チップを共同調達しています。余剰備船契約の有効活用、直接貿易によるコスト調達削減、調達先の最適化、業務および人員効率化による固定費削減を進め、変動リスクに対応しています。

世界的な新型コロナウイルス感染症の感染拡大影響による需要減少、中越パルプ工業グループの従業員が新型コロナウイルス感染症に感染した場合や、政府・地域行政

機関からの要請などにより、生産活動を一時的に停止する可能性があります。拡大する感染症への対策として、中越パルプ工業グループでは新型コロナウイルス感染症の拡散防止と社員の健康・安全・雇用確保を最優先に、国内拠点の一部において在宅勤務を推進しています。工場での生産活動については、政府や地域行政機関の方針に従い、感染防止に留意しながら稼働を継続しています。また、設備更新工事において、密閉・密集・密接の3密となるリスクが高い一部工事については、延期や工期の延長などを行い、感染リスクを低減する対策を行っています。

2019年度事業概況

General Business Condition in 2019

Paper and Pulp Manufacturing Business 紙・パルプ製造事業



高岡工場N1マシン

新聞用紙、印刷用紙、包装用紙、特殊紙、板紙および加工品、パルプを製造・販売しています。王子製紙株式会社（王子ホールディングス株式会社100%子会社）との合弁会社O&Cアイボリーボード株式会社（高板・加工原紙製造・販売）が、2017年10月に営業運転を開始しています。

強み Strengths

- 創業以来培った技術力
- 脱プラスチック代替需要が期待できる包装用紙のシェアが高く、高板・加工原紙事業（O&Cアイボリーボード株式会社）に強い
- 森林資源・竹・古紙集荷基盤
- 主力工場である高岡工場と川内工場で、製造・販売することによるBCP対応、多様性の確保
- 「竹紙」、「里山物語」に代表される、環境配慮型製品の提供
- 紙販売減少をパルプ販売で補完できる

弱み Weaknesses

- 装置産業であるため、稼働率低下により損益悪化
- 主力工場が2拠点あり、二重投資が必要
- 需要が減少している印刷情報用紙の比重が高い（約5割）

機会 Opportunities

- 需要減少する紙の代替としてパルプを製造することにより、中国などの成長国に対するパルプ販売増加
- 当社が得意とする高板・加工原紙において、脱プラスチックで需要開拓
- 環境に配慮する企業で「竹紙」、「里山物語」の関心度が高い

脅威 Threats

- 電子化の進展などによる新聞用紙、印刷情報用紙を中心とした紙需要の減少
- 競争激化による紙市況の軟化
- 景気低迷に伴うパルプの国際市況軟化

2019年度の主な取り組みと実績

- 新聞用紙や印刷情報用紙は、広告需要の低迷や電子化の進展、少子高齢化などの構造的問題により、減少傾向に歯止めがかからず、また産業用紙など他の品種についても、国内景気の減退や新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響などもあり減収
- 製品の価格還元効果もあり増益

2020年度以降に向けて

- 新型コロナウイルス感染症や景気低迷の影響から紙の需要が減少しており、生産体制の再構築が喫緊の課題
- パルプ販売の拡大を引き続き実行
- O&Cアイボリーボード株式会社の高板・加工原紙事業の収益基盤強化

セグメント売上高（億円）



セグメント利益（億円）



Power Generation Business 発電事業



唐浜メガソーラー発電所

川内工場では、未利用間伐材を主体とする国産材のみを燃料とした木質バイオマス発電事業、太陽光発電設備で売電。二塚製造部では、余剰電力を売電しています。

強み Strengths

- 川内工場の発電設備
 - 鹿児島県を中心とした、九州中南部地域での未利用間伐材の強い集荷基盤
 - 紙・パルプ製造事業で培った発電ノウハウ
- 二塚製造部の発電設備
 - 紙・パルプ製造設備の余剰電力を売電可能

弱み Weaknesses

- 川内工場の発電設備
 - 木質バイオマス発電設備で、ボイラー定期検査費用が2年に1度あり、収益が増減
- 二塚製造部の発電設備
 - ボイラー定期検査費用が2年に1度あり、収益が増減

機会 Opportunities

- 川内工場の発電設備
 - クリーンエネルギー
 - FIT制度による20年間固定単価
 - 地球温暖化防止に欠かせないエネルギー源
- 二塚製造部の発電設備
 - 紙・パルプ製造が減少していく中、余剰電力が増加

脅威 Threats

- 川内工場の発電設備
 - 他社の木質バイオマス発電設備が南九州地区で稼働した場合、現在の未利用間伐材集荷基盤の維持が困難
 - 太陽光発電設備で、電力会社がエネルギーの買い取りを一時的に停止することによる収益の減少
 - 太陽光発電設備の発電量は、日照の強弱・時間に左右される
 - FIT制度の廃止
- 二塚製造部の発電設備
 - 電力会社との契約が1年単位のため、次年度以降の契約打ち切りリスク

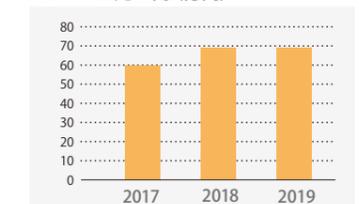
2019年度の主な取り組みと実績

- 安定操業に努め、前年並みの売上
- 当社生産本部二塚製造部において、隔年で行っているボイラーの定期検査を行ったことにより減益

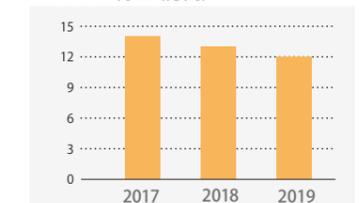
2020年度以降に向けて

- 引き続き安定操業・未利用間伐材の安定集荷

セグメント売上高（億円）



セグメント利益（億円）



2019 年度事業概況

Other Businesses
その他の事業



nanoforest ロゴマーク

ナノフォレスト事業、マブカ事業、紙・パルプ製造事業を補助する事業 [紙加工品製造、造林・緑化事業、木材チップの購入・販売、運送、機械設備設計施工(修理)、建設施工、工業薬品の購入・製造・販売、紙断裁選別包装、保険代理など] で構成しています。

強み Strengths

- ナノフォレスト事業**
- 当社で生産したパルプ(特に国産の竹パルプ)と水のみで製造するセルロース・ナノファイバーで環境に優しい
 - 当社製造セルロース・ナノファイバーは、水と油になじむ両親媒性の特徴があり樹脂に混練しやすい

- 紙・パルプ製造事業補助事業**
- 中越パルプ工業グループ内での安定した売上

機会 Opportunities

- ナノフォレスト事業**
- 再生可能な資源由来で、環境負荷が低く、持続可能性のある高機能製品。今後、国内外で市場の拡大が見込まれる

- 紙・パルプ製造事業補助事業**
- 紙・パルプ製造事業の補助で培った、ノウハウや基盤をもとにした外部売上の増加

弱み Weaknesses

- ナノフォレスト事業**
- 開発途上技術のため、販売先での開発に時間がかかる
 - 高機能セルロース・ナノファイバーはまだ研究開発段階

- 紙・パルプ製造事業補助事業**
- 紙・パルプ製造事業の稼働に売上が左右される

脅威 Threats

- ナノフォレスト事業**
- 注目をあびる新製品のため、製紙業だけではなく色々な会社が開発しており、競争が激しい

- 紙・パルプ製造事業補助事業**
- 紙・パルプ製造事業の稼働減少による売上高減少

2019 年度の主な取り組みと実績

- 建設部門で好調な受注が寄与したことなどで増収
- 紙・パルプ製造事業の生産・販売数量が減少した影響を固定費削減などで補いきれず若干減益
- マブカ工場建設着工(10月)
- 高機能セルロース・ナノファイバーパイロットプラント計画

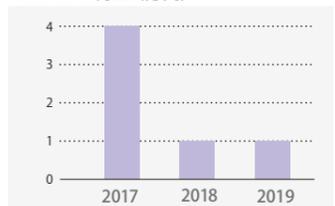
2020 年度以降に向けて

- マブカ工場稼働(2021年春)
- 高機能セルロース・ナノファイバーパイロットプラント着工(2022年度)

セグメント売上高(億円)



セグメント利益(億円)



中越パルプ工業の本業である「紙づくり」を通じて、社会問題を解決するために、地域社会と共に、ビジネスとしても専門性を活かした価値を創出します。

本業で
社会に貢献

日本の竹 100% からできた「竹紙」や、里山保全への寄付金付き国産材活用用紙「里山物語」など。他社にない独自の紙を製造販売することで国内の森林や里山、生物多様性保全などに寄与しています。



日本の竹、100% の紙

竹紙

たけがみ



かつて伐採された竹は、竹垣や竹箆などに利用されていましたが生活様式の変化などで需要が減り、放置竹林が隣接の森林や里山を侵食し、生物多様性を低下させる問題となっています。竹林が多い鹿児島県に立地する川内工場では、「地元の竹を紙の原料にしてほしい」という要望を受け、本来、製紙材料に不向きな竹をチップ化・製紙原料にする挑戦を1998年にスタートしました。現在では年間2万tを超える竹を活用。しなやかで、やさしい風合いの「竹紙」は印刷用紙から産業用紙まで幅広く利用されています。



生物と森を育む紙

里山物語

さとやまものがたり



「里山物語」は、森林保全や生物多様性保全に貢献できる紙として2009年に誕生しました。日本では林業の衰退に伴い森林放棄が問題となっています。また、コストの問題で間伐利用されない人工林が増加しました。そこで当社では、製紙工場がある北陸と九州地区の森林から証明書付きの間伐材を購入し、活用するクレジット方式を採用。「里山物語」に里山保全活動のための寄付金をつけて販売し、里山を活用する団体と人を支援することで、人々と里山のつながりを大切にしています。

竹紙

たけがみ

JAPANESE BAMBOO PAPER



SDGsとの
関わり

社会の要請・期待

鹿児島県薩摩川内市は日本有数の竹林面積を誇る地域です。中越パルプ工業も1954年にこの場所で紙づくりを始めています。良質なタケノコ生産を促すために5年以上の親竹は伐採しますが、竹は燃やすか野積みで放置されていました。「伐採した竹を紙の原料に使えないか」と相談があったとき、竹は加工コストもかかり、紙の原料に適しているとはいえませんでした。「地域のために使ってみよう」と、1998年「竹紙」の取り組みが始まりました。



全国に広がる放置竹林の問題。成長が早い竹は、隣接する森林も侵食します

事業活動紹介

竹の表皮は硬く、加工は非常に困難です。紙の原料繊維だけを取り出す工場の設備で竹チップを使用した際、竹の長い表皮が混在して、機械に絡み生産が止まるトラブルもありました。しかし、挑戦をあきらめず、竹チップの品質向上や設備の調整を行い、試行錯誤の結果、紙の原料に竹を使用することに成功しました。2009年川内工場では無塩素漂白パルプ生産設備と竹100%の紙原料工程も増強し、数多くの竹紙品種を製造できるようになりました。



伐採者が竹をチップ工場へ自ら運搬、竹チップから製紙工程を経て竹紙が完成

社会への貢献と影響

「竹紙」の活動により、年間2万tもの竹を持続的に活用できる体制ができ、地域経済への貢献と竹林の整備が進みました。「竹紙」の活動は、継続することに価値があり、存在そのものにメッセージがあります。この取り組みに共感して行動される方や、課題解決のヒントにつながるなど、新しいものを生み出す可能性も秘めています。中越パルプ工業はこれからも、紙づくりという本業を通じて、社会的課題に挑戦する価値ある企業を目指してまいります。



写真左上：封筒、紙袋 写真右：MEETS TAKEGAMI 折り紙と短冊などの商品
写真左下：整備された竹林

受賞歴



- | | | | | | | |
|---|--|--|--|------------------------------|---------------------------|--|
| 第1回
「いきものにぎわい
企業活動コンテスト」
審査委員特別賞 | 第8回
「エコプロダクツ大賞
(エコプロダクツ部門)」
農林水産大臣賞 | 「低炭素杯2012」
審査員特別賞・最優秀
プレゼンテーション賞 | 「ソーシャルプロダクツ・
アワード2014」
ソーシャルプロダクツ賞 | 第3回
「生物多様性 日本ア
ワード」優秀賞 | 第15回
「グリーン購入大賞」
優秀賞 | 第7回
「新宿エコワン・グランプリ」
事業者部門
チャレンジ賞 |
|---|--|--|--|------------------------------|---------------------------|--|

里山物語

さとやまものがたり

CRM PAPER SATOYAMA MONOGATARI



SDGsとの
関わり

社会の要請・期待

林業の衰退とともに、手入れがされない森林放置が問題となっています。杉やヒノキなどの人工林において、良質な木材を産出するためには、枝打ちや間伐作業が不可欠です。また、雨水を蓄える水源として、山の土砂崩れを防ぐ土壌保全などの機能も、森林の荒廃が低下させてしまいます。日本の森を守る活動として、製紙会社ができることは何かを考え、中越パルプ工業は間伐材を積極利用した紙「里山物語」の仕組みを作り出しました。



事業活動紹介

製材には不向きとされ、行き場のなかった間伐材を活用することは、森林整備となる間伐促進と森林保全に役立ちます。クレジット方式では、環境に配慮し、原料となる証明書付き間伐材の割合を管理しながら、利用を促進できます。中越パルプ工業では「里山物語」の販売を通じて、四季折々の豊かな自然と生物多様性の宝庫である里山を守るため、現在までに日本の里山を有効活用している8つの団体へ活動支援を行っています。



「里山物語」の利用から生まれた社会貢献活動、里山保全を実現します

社会への貢献と影響

用紙に含まれる寄付金で、里山で活動する団体を支援し、新たな価値の創造へ。例えば、冊子やパンフレットの用紙に「里山物語」の紙を選び、使われるお客さまは、多大なコストや手間をかけずに、どなたでも「森林保全」や「生物多様性」の保全に貢献していただくことができます。そして、里山での人のつながりから、お互いの多様性を認め、自然体験や里山の恵みを活かした農業の持続など、活動の輪を広げることが可能になります。



森のようちえんピッコロ 第4回 寄付金支援により東屋完成

受賞歴



- | | | | | | | |
|---|--|--|--|--|-----------------------------|------------------------------|
| 第1回
「いきものにぎわい企業
活動コンテスト」
審査委員特別賞 | 第7回
「新宿エコワン・グランプリ」
事業者部門
チャレンジ賞 | 第3回
「GTF Green Challenge
AWARDS 2014」間伐・
間伐材利用コンクール
審査員特別賞 | 第1回
「日本自然保護大賞」
企業・団体リーダー部門
大賞 | 第4回
「グッドライフアワード」
実行委員会特別賞
(環境と循環部門) | 第2回
「ウッドデザイン賞
2016」入賞 | 第1回
「グリーン・オーシャン大賞」
優秀賞 |
|---|--|--|--|--|-----------------------------|------------------------------|

ISO26000に基づく 取り組み事例

Examples of Actions Based on ISO26000

中越パルプ工業グループは事業活動を通じ社会的責任を果たすため、CSRの国際的なガイドラインであるISO26000の中核主題に沿った取り組みを展開しています。下表は、国際規格ISO26000の7つの中核主題に関連する重要課題（マテリアリティ）を記載しています。

●重要課題（マテリアリティ）の特定プロセス

Step.1 課題の認識・整理

ISO26000、SDGsなどの国際的なガイドラインを考慮し、当社の課題を抽出する。

Step.2 妥当性の確認・検証

社内におけるCSRミーティングやステークホルダーとの対話などから、妥当性を確認し、課題を検証する。

Step.3 重要課題（マテリアリティ）の特定

社会環境への貢献と企業価値向上につながる活動として当社の重要課題（マテリアリティ）を特定する。

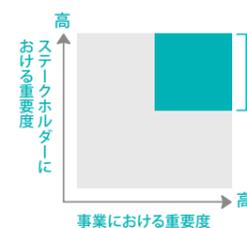
Step.4 評価指標の設定・検証

活動を通じて持続可能な社会の実現に寄与するために具体的な取り組みを設定する。

中越パルプ工業グループのCSRにおけるマテリアリティ

Materiality in Chuetsu Pulp & Paper Group's Corporate Social Responsibility

ISO26000の中核主題	重要課題（マテリアリティ）
企業統治	● コーポレート・ガバナンス
人権・労働慣行	● 働きやすさと個人の能力を発揮する環境整備
環境	● 地球温暖化対策の推進 ● 森林資源の育成と保護の推進 ● 紙資源のリサイクルの推進 ● 廃棄物の削減と有効利用の推進 ● 環境法令の遵守及び環境管理体制強化の推進 ● 化学物質使用の適正化の推進 ● 生物多様性保全の取り組み
公正な事業慣行	● ステークホルダーとの対話
消費者課題	● CSV戦略
コミュニティー参画・発展	● 地域との共生



中越パルプ工業グループのバリューチェーンにおける取り組み

Chuetsu Pulp & Paper Group's Activities in the Value Chain

社会的課題	ISO 26000の中核主題	SDGsへの貢献	バリューチェーンにおける取り組み				掲載ページ
			調達 / 原材料	生産 / 製造	販売 / サービス	リサイクル / 廃棄物	
経営に係る責任	企業統治	16 誠実な実業 17 持続可能な消費	コーポレート・ガバナンス ● 有効に機能する経営体制の構築				P.22-23
人権・労働に関わる責任	人権・労働慣行	8 働きがい 10 働きやすさ	働きやすさと個人の能力を発揮する環境を整える取り組み ● 過重労働の防止 ● 休暇を取得しやすい環境づくり ● 障がい者雇用の促進				P.36-37
環境に関わる責任	環境	3 気候変動 6 清潔なエネルギー 9 産業・団体の持続可能性 11 持続可能な消費 12 持続可能な生産・消費 14 海洋資源 15 陸域生態系	地球温暖化対策の推進 ● CO ₂ 排出量削減 ● 再生可能エネルギーの利用向上				P.24-33
			森林資源の育成と保護の推進 ● 合法性を遵守した原料調達 ● 適切に管理された森林資源の利用 ● 国内森林資源の有効利用		紙資源のリサイクルの推進 ● 古紙配合適正化 ● 古紙利用促進		
					廃棄物の削減と有効利用の推進 ● 産業廃棄物最終処分量の削減		
			環境法令の遵守及び環境管理体制強化の推進 ● 自主管理値の遵守 ● 環境マネジメントシステムの構築				
			化学物質使用の適正化の推進 ● 環境負荷量の低減 ● 製品安全の検証・管理				
事業取引に関わる責任	公正な事業慣行	16 誠実な実業 17 持続可能な消費	ステークホルダーとの対話 ● 地域住民の皆さまとの情報交換 ● 工場見学の実施				P.39
お客さまへの責任	消費者課題	9 産業・団体の持続可能性 15 持続可能な消費	CSV戦略 ● 「竹紙」「里山物語」の活用				P.17-19
地域・社会への責任	コミュニティー参画・発展	11 持続可能な消費 17 持続可能な消費	地域との共生 ● 地域に密着した社会貢献活動の実施				P.38

コーポレート・ガバナンス

Corporate Governance

中越パルプ工業グループは、コーポレート・ガバナンスが有効に機能する経営体制の構築が経営の重要課題であるとの認識の下、以下のコーポレート・ガバナンス体制図を構築することで、チェック機能の強化を図り、迅速かつ透明性のある経営により企業価値の向上に努めてまいります。



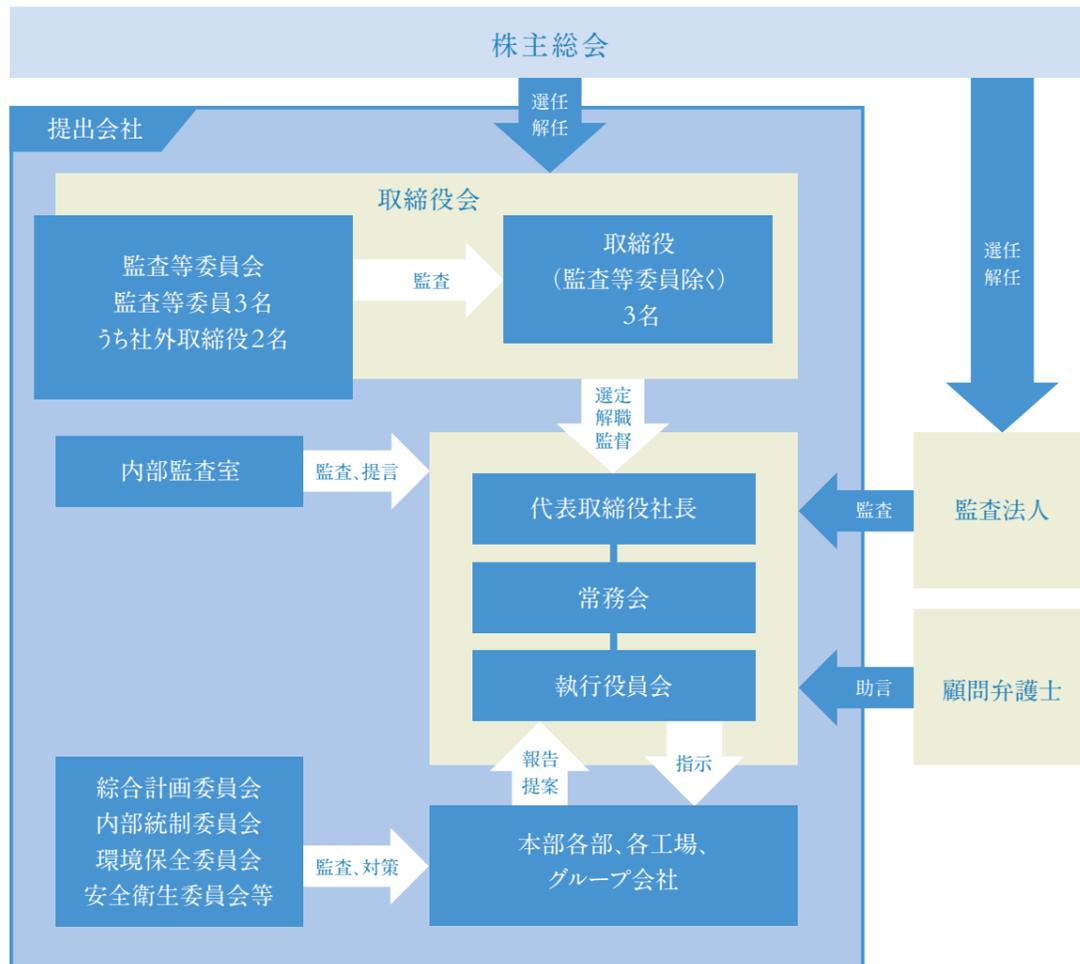
主要な会社の機関

Major Corporate Institutions

機関の名称	議長または委員長の氏名および役職名	構成員	権限および目的
取締役会	植松 久 代表取締役社長	取締役 6名	月次の決算および営業報告に加え、法令・定款・取締役会規程などに定められた事項について審議・決議する。
執行役員会	植松 久 代表取締役社長	取締役(社外取締役除く) 4名 執行役員 10名 管理部長 1名	執行役員の所管事項につき経営の推進に資するため、主要事項の業務報告の実施を通して、情報共有および連絡調整する。
常務会	植松 久 代表取締役社長	取締役(社外取締役除く) 4名 執行役員 9名(子会社社長専任除く) 管理部長 1名	会社全般の経営に関する事項として、取締役会への附議事項、取締役会からの委任事項などを協議する。
監査等委員会	小林 敬 取締役 (常任監査等委員)	監査等委員 3名	法令および定款に基づき、取締役会の意思決定過程および取締役の業務執行状況について監査する。

コーポレート・ガバナンス体制図

Corporate Governance Organizational Chart



役員紹介 (2020年12月1日現在)

Introduction to Directors

取締役



代表取締役社長 兼 執行役員
営業本部管掌

植松 久



取締役 兼 執行役員
資源対策本部長、経営管理本部・
内部監査室・東京事務所管掌

三浦 新



取締役 兼 執行役員
生産本部長、高板・特殊用紙特命担当、
開発本部管掌

地蔵 繁樹



取締役
常任監査等委員

小林 敬



社外取締役
監査等委員

杉島 光一



社外取締役
監査等委員

山口 敏彦

執行役員



上席執行役員
O&Cアイボリーボード株式会社
代表取締役社長

要堺 由隆



上席執行役員
開発本部長

宮田 雄二



上席執行役員
営業本部長

芝 浩



執行役員
営業本部副本部長
兼 印刷出版用紙部長

皆吉 和彦



執行役員
生産本部副本部長

永田 健二



執行役員
高岡工場長
兼 営業本部副本部長

磯部 勉



執行役員
営業本部副本部長
兼 営業管理部長

濱本 信之



執行役員
川内工場長
兼 営業本部副本部長

下川 靖博



執行役員
共友商事株式会社
代表取締役社長
兼 経営管理本部副本部長
兼 東京事務所長

森田 浩生



執行役員
経営管理本部長

福本 亮治

環境への取り組み

Action for Environment

中越パルプ工業では「環境憲章」を制定し、基本理念を実現するために行動指針を設けることで、持続的発展が可能な循環型社会の形成に貢献していきます。

環境憲章

～基本理念～

Environmental Charter -Basic Principles-

中越パルプ工業は、生物多様性及び生態系の保護に配慮した企業活動を展開し地球規模での環境保全に取り組み、持続的発展が可能な循環型社会の形成を目指して貢献します。そのため地球環境の維持と向上に取り組みとともに、資源の保護と有効利用、環境に配慮した新技術・新製品の開発などを積極的に推進します。

行動指針	環境行動計画	活動状況	掲載ページ
1 地球温暖化対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> 省エネルギーを推進し、化石エネルギー由来のCO₂排出量を削減する。 再生可能エネルギー利用を推進する。 物流の合理化、効率化を推進する。 	バイオマスエネルギーを活用することにより、化石エネルギー由来のCO ₂ 排出量の削減を実施している。 2019年度化石燃料由来CO ₂ 326千t/年 2019年度バイオマスエネルギー利用量 386千kl/年	P.25
2 森林資源の育成と保護の推進	<ul style="list-style-type: none"> 合法性、持続可能性のある認証材の使用に努める。 非木材、間伐材、廃材などの木質資源の有効利用に努める。 植林による森林資源の育成と製材残材・間伐材・廃材などの木質資源の有効利用に努める。 	使用木材の調達地域などの情報をトレーサビリティシステムにより入手して、合法性、持続可能性、生物多様性の保全状況などを定期的に確認している。 2019年度 FSC® 認証材調達量 106千BDt/年 2019年度 PEFC 認証材調達量 29千BDt/年	P.26 P.27
3 紙資源のリサイクルの推進	<ul style="list-style-type: none"> 製品への古紙配合率の適正化を図る。 古紙品質の向上および利用拡大を推進する。 	定期的な受け入れ検査を実施し、古紙利用率向上と高品質な紙製品製造の両立に努めている。	P.28
4 廃棄物の削減と有効利用の推進	<ul style="list-style-type: none"> 分別回収、再利用による廃棄物発生量の低減に努める。 廃棄物の最終処分量を削減するとともに有効利用を推進する。 	廃棄物分別の徹底を図り、無害化など適切な処理を行うことで可能な限り再利用している。 2019年度産業廃棄物発生量 39千t/年に対して最終処分量 0.5千t/年	P.29
5 環境法令の遵守及び環境管理体制強化の推進	<ul style="list-style-type: none"> 法規制値超過をゼロにするため、自主管理値を設定し遵守事項とする。 環境マネジメントシステムと環境監査を活用した環境重視の体制づくりに努める。 環境事故発生をゼロにする。 	自主管理値の超過時は、操業を停止するなど環境への影響の低減に努め、環境コンプライアンス教育や環境監査の実施など、問題を見逃さない体制づくりを構築している。	P.30
6 化学物質使用の適正化の推進	<ul style="list-style-type: none"> 安全性に関する法令を遵守し、製品への利用に対して環境負荷の低減に努める。 業界と連携して環境負荷化学物質対策を推進する。 	使用する薬品は、選定の段階で安全性を確認して調達するほか、業界団体や同業他社の調達などの情報を確認し、化学物質管理強化に努めている。	P.31
7 積極的な環境コミュニケーションの推進	<ul style="list-style-type: none"> ステークホルダーへの積極的なコミュニケーションに努める。 ステークホルダーに対する適切な環境情報提供に努める。 	統合報告書の開示やウェブサイトによる情報公開、近隣住民との意見交換会、工場見学の実施、地域行政への協力を通して、地域社会との信頼関係の構築、意思疎通を図るほか、大型設備などの導入時や工場停止時には、工事や操業にともなう環境影響などについて事前に説明を実施している。	P.38 P.39

地球温暖化対策の推進

Promotion of Global Warming Countermeasures

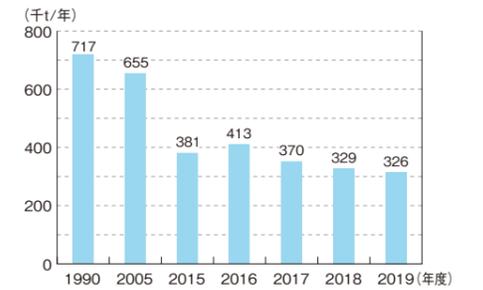
中越パルプ工業グループでは、バイオマスエネルギーの積極利用による化石燃料の削減の他、省エネルギーの推進により温室効果ガスの排出削減に取り組んでいます。

CO₂ 排出量削減の取り組み

Efforts for Reducing CO₂ Emissions

2019年度の化石エネルギー由来CO₂排出量は、2005年度比で330千t削減、削減率は50.2%となりました。回収ボイラによる再生可能エネルギーの利用をはじめ、新エネルギーボイラや木質燃料ボイラによる廃棄物エネルギーを利用することで化石エネルギー起源CO₂排出の低減に努めています。

化石燃料由来 CO₂ (千t/年)



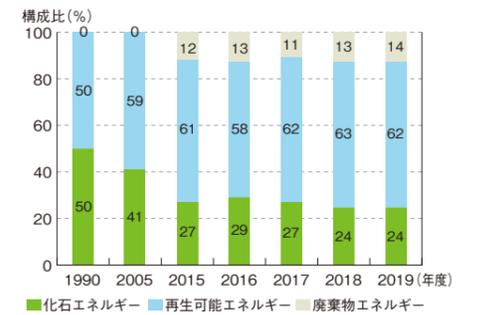
エネルギー構成の推移

Transition in Energy Composition

再生可能エネルギーと廃棄物エネルギーの合算をバイオマスエネルギーとし、これらを積極的に利用することで化石エネルギーからの転換を進めています。再生可能エネルギーでは、黒液*がエネルギー源の半分以上を占め、その他にも工場内で発生する製紙汚泥、未利用材をはじめとした木質燃料、RPF、廃タイヤなど様々な廃棄物エネルギーの積極的な使用により、2010年度以降、バイオマスエネルギーは全エネルギーの70%以上の高い割合を維持しています。

*黒液：パルプ製造時に発生する木材中の有機分が含まれる黒色の薬液

エネルギー構成比率 (換算熱量)

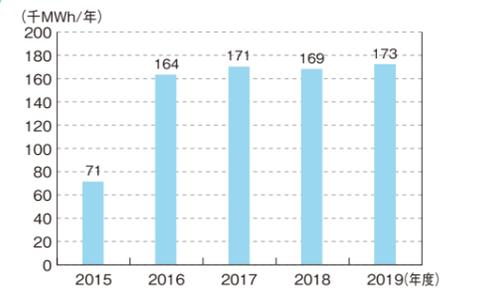


再生可能エネルギーを使用した発電事業

Power Generation Business Using Renewable Energy

鹿児島県薩摩川内市内の社有地を活用し、2013年度より自然エネルギーである太陽光を利用した発電を実施する「唐浜メガソーラー発電所」を設置。これに加え、2015年度には間伐材の未利用材および一般材を燃料とする「木質バイオマス発電設備」を設置しました。これらの電力は、再生可能エネルギー固定買取制度を利用し、環境負荷の少ないエネルギーとして利用されます。

発電実績 (千MWh/年)



唐浜メガソーラー発電所



木質バイオマス発電設備

森林資源の育成と保護の推進

Promoting the Growth and Protection of Forest Resources

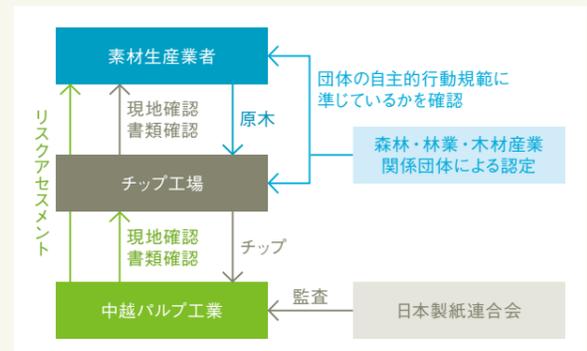
当社では「木材原料の調達方針」を制定し、合法性を遵守した持続可能な森林資源の有効利用に努めています。



Procurement of Materials under Legal Observance

合法性を遵守した原料調達

当社が原料として使用する木材チップは、当社の「木材原料の調達方針」に沿って、違法伐採材を排除し、伐採地域の森林経営の環境面と社会的健全性に配慮した調達を行っています。合法証明システムを構築し、調達先ごとに伐採地域、伐採した森林の形態、対象となる法令などをトレーサビリティレポートにより把握しています。さらに、2017年5月より施行された「合法伐採木材等の流通及び



利用の促進に関する法律（クリーンウッド法）」に基づき、日本製紙連合会を通じてクリーンウッド法の登録実施機関への登録を行っており、当社グループ共通のDDシステムマニュアルを作成して、それに沿って全ての材に対してリスクの最小化を図っています。この合法証明およびクリーンウッド法に基づく登録に関しては、年に1回、日本製紙連合会の監査を受け、問題のないことを確認しています。

木材原料の調達方針

- 1 森林資源の保護育成と地球環境への貢献**
再生可能な資源である森林を保護育成し、健全な林業経営を営んでいるソースからの調達を通じて、地球環境および地域経済への貢献を目指します。
- 2 合法性の遵守と持続可能性の維持**
現地の法律や規則を遵守し、生物多様性の保全に配慮した持続可能な森林経営による森林から生産された木材を原料として使用します。（違法伐採材は使用しません）
- 3 トレーサビリティの確保**
木材の合法性、持続可能性を確認するシステムを構築、安全な原料の調達に努めます。
- 4 森林資源の有効活用**
製材残材、間伐材、家屋解体材などの木質原料を積極的に利用し、資源の有効活用に努めます。
- 5 植林事業の積極推進**
植林事業を積極的に推進するとともに、植林木原料比率を高めています。
- 6 森林認証材の積極調達および推進**
森林認証材を積極的に調達し、高保護価値林が保護され、伝統を守る権利または市民権が侵害されていない、適切に管理された森林から生産された木材の使用拡大に努めます。
- 7 情報の公開**
木材原料調達ソースの情報を開示します。

Effective Use of Japan's Forestal Resources

国内森林資源の有効活用

当社は地域の特徴を生かした取り組みを行い、国産材を積極的に活用して、国が目標としている国産材の供給量および利用量の拡大に貢献していきます。

● 間伐材など未利用材の調達

当社では製紙原料として証明書付き間伐材の調達を積極的に行い、林業の活性化によって健全な林業経営が保たれるよう努めています。また、川内工場で稼働している木質バイオマス発電所の燃料については、国産材を100%使用しています。その中でも間伐材など未利用材90%以上の利用を目標に掲げ、実行しており、地域と一体となって森林管理さらには雇用創出に貢献する活動を行っています。

燃料として使用する間伐材など未利用材比率

目標比率	実績比率
90%以上	92.2%

● 国産竹の有効利用による森林保全

① 川内工場事例

日本一の竹林面積を持つ鹿児島県に位置している川内工場は、1998年から製紙原料として地域の国産竹の有効利用に取り組んでいます。当社独自の集荷システムを確立して、地域の竹林管理、隣接する里山の保全再生、生物多様性の保全などに役立っている他、地域経済にも貢献しています。国産竹チップの調達量は近年減少傾向にはありますが、引き続き目標に向け取り組んでいきます。

国産竹チップの調達実績（2019年度）

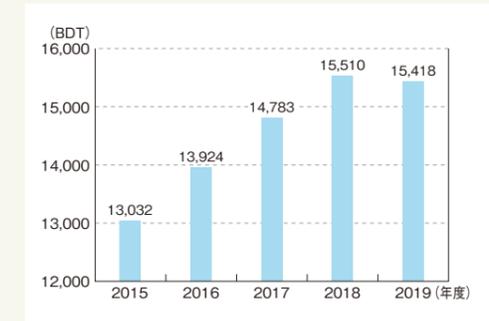
調達目標	調達実績
9,000 BDT/年	6,250 BDT/年

連携により行っている竹を題材とした協議会および分科会へも積極的に参加、提言するなど、放置竹林に関する諸問題の解決に取り組んでいます。

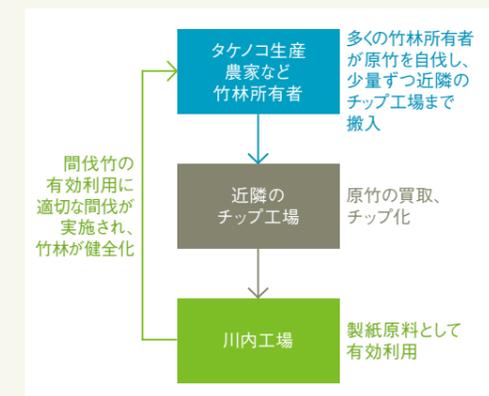
② 高岡工場事例

川内工場の地域国産竹を有効利用した「竹紙」の取り組みに加え、富山県にある高岡工場でも放置竹林の拡大による森林の公益的機能の低下防止に役立てるため、2010年から行政および地域森林組合とも連携して、森林ボランティアや地域の森林保全活動を支援する体制を作り、竹資源の有効利用促進に努めています。

証明書付き間伐材調達実績



国産竹の集荷システムの一例



Use of Suitably-Managed Forestal Resources

適切に管理された森林資源の利用

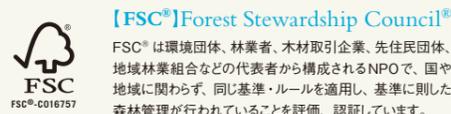
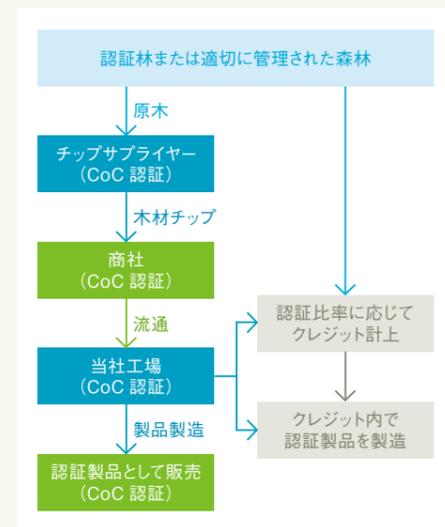
持続可能な森林資源の利用のため、当社はFSC®、PEFCの森林認証制度により、適切に管理された森林からの木材チップの調達を行っています。認証材は、木材チップの生産を行うサプライヤーから商社を介して当社が原料を調達するまで、製造・流通の全ての段階で取引先がCoC認証を取得しており、当社も第三者機関（SGS ジャパン株式会社）による審査を受けた上で、FSC®やPEFCの認証製品としての販売を行っています。

管理木材としてのリスク評価

下表の5つの木材カテゴリーには属さない、またはこのカテゴリーの木材である可能性は低いと確認された木材

1	違法に伐採された木材
2	伝統的権利および人権を侵害して伐採された木材
3	管理活動により高い保護価値（HCV）が脅かされている森林からの木材
4	人工林または森林以外の土地利用に転換されている森林からの木材
5	遺伝子組み換え樹木が植えられている森林からの木材

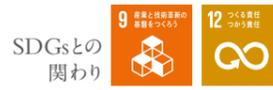
FSC® や PEFC などの森林認証材から製品までの流れ



紙資源のリサイクルの推進

Promoting the Recycling of Paper Resources

国内における紙の原料は6割が古紙、4割が木材由来です。中越パルプ工業は、「資源の持続的な有効利用」と「廃棄物の減量化」につながる古紙の原料リサイクルに取り組んでいます。



紙への古紙配合適正化

Optimization of Waste Paper Compounded to Paper

古紙パルプなど配合率管理手順書を作成し、配合率の適正化に努めています。配合率の遵守状況については、定期的に社内での内部監査を実施し確認しています。

国内古紙利用率と二塚製造部古紙利用率の推移



古紙利用促進の取り組み

Efforts to Promote Waste Paper Use

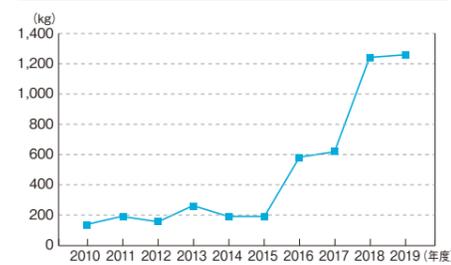
中越パルプ工業は、工場内で古紙分別の徹底や地域の協力団体、地域の行政と連携して、紙のリサイクル活動を推進しています。従来は焼却処分されていた地元行政の機密書類についても、古紙問屋を通して工場内の古紙溶解設備で処理し、原料化しています。

使用済み年賀はがきのリサイクル活用

Recycled Use of New Year's Greeting Postcard

小中学校・保育園などの地域協力団体や行政の協力のもと、使用済み年賀はがきの回収を行い、工場で原料化しています。この取り組みは恒例行事として根付いたことで、環境配慮意識の向上につながり、回収量は年々増加傾向にあります。協力いただいた返礼として、地域の協力団体にコピー用紙やオリジナルデザインのノートを進呈しています。

使用済み年賀はがき回収量



使用済み年賀はがき回収



ノート贈呈

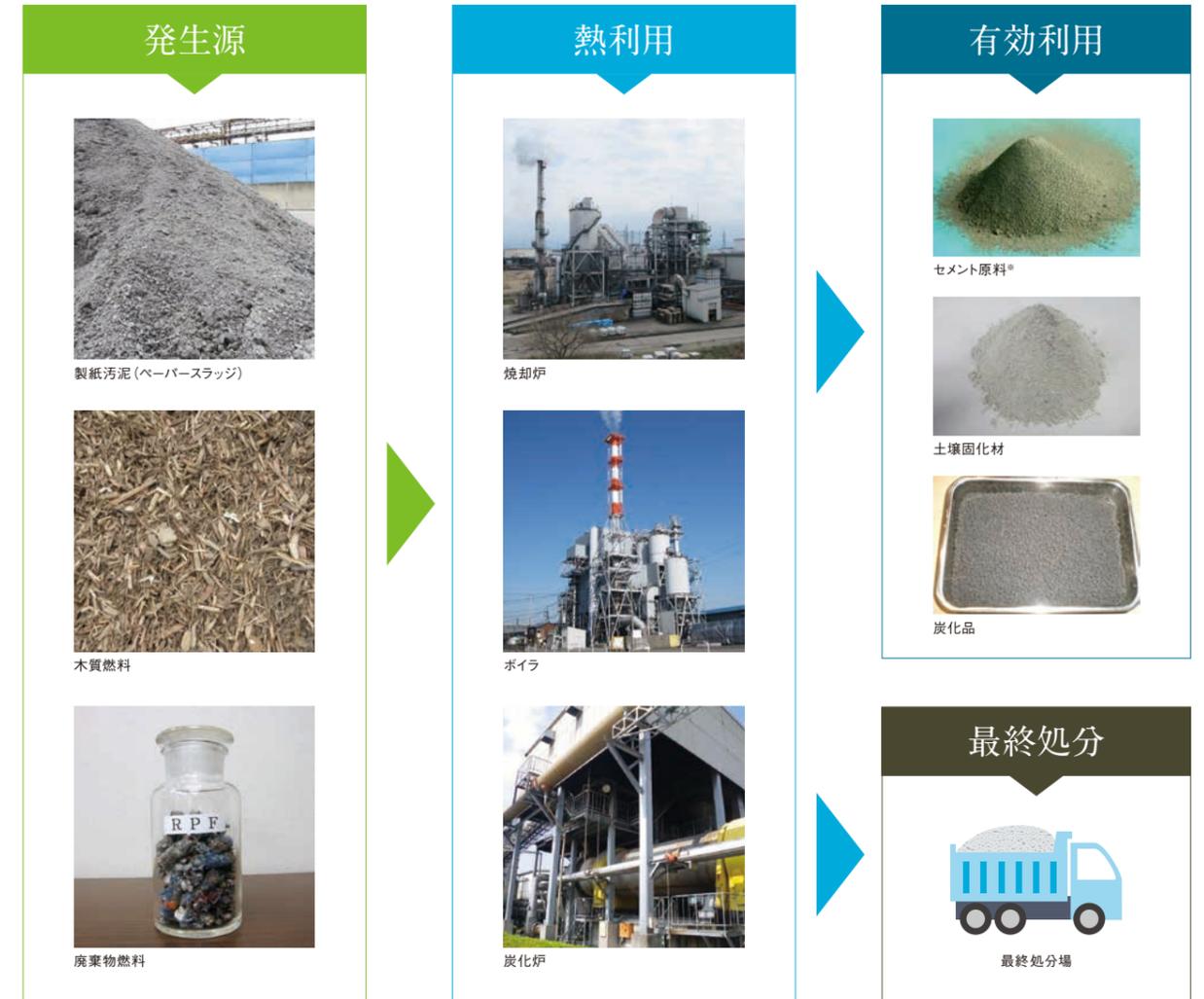
廃棄物の削減と有効利用の推進

Promoting the Reduction and Effective Use of Waste

紙・パルプの製造に伴い発生する廃棄物については、適正処理の下処分を実施しています。処分についても、ただ最終処分を行うだけでなく、分別強化による有効利用化ならびに、操業安定に取り組み、最終処分量の削減に努めるとともに、循環型社会の形成にむけ、新技術の導入で産業廃棄物の発生量自体を削減する取り組みを推進しています。



当社の廃棄物処理フローについて | Our Waste Disposal Flow



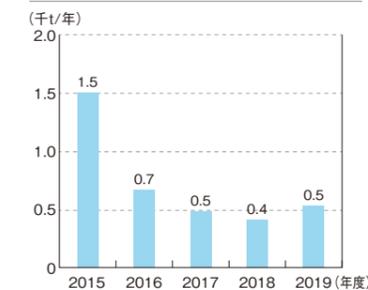
* 一般社団法人 セメント協会 参照

当社では、製品 1t 当たりの最終処分量 1kg 以下をゼロエMISSIONの目標として取り組んでいます。達成状況については 2016 年度より、廃棄物の分別回収の取り組みと操業の安定による発生量の減少などにより、会社全体でゼロエMISSIONを達成・継続しています。

産業廃棄物 発生量 (千t/年)



産業廃棄物 最終処分量 (千t/年)



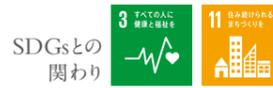
ゼロエMISSION数値 (最終処分量 kg/最終製品量 t)



環境法令の遵守及び環境管理体制強化の推進

Compliance with Environmental Laws and Strengthening of Environmental Management System

「法基準値超過ゼロ」、「環境事故発生ゼロ」にするため、環境管理体制強化の取り組みに努めています。



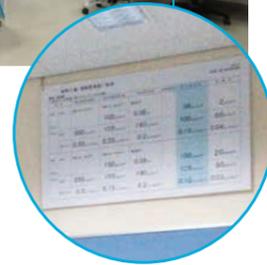
自主管理値の設定

Setting Voluntary Control Values

中越パルプ工業では、大気汚染防止法、水質汚濁防止法などの環境関連法令で規制されている法令値をはじめ、工場所在地の行政・自治体で定められた届出値・協定値を確実に遵守するため、全ての工場でより厳しい基準の「自主管理値」を設定し、管理しています。



工場各現場には、法令値・届出値・協定値・自主管理値を記載した看板を掲示しており、数値の遵守や周知徹底の強化に努めています。



環境マネジメントシステムの構築

Organization of Environmental Management System

環境に配慮することは、今や企業にとって当然の責任となっています。中越パルプ工業では、全ての工場で環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001を認証取得し、環境パフォーマンスの向上、遵守義務の履行、環境目標の達成のため、認証機関による審査ならびに年1回の内部監査を実施しています。



認証機関による審査

環境監査

Environmental Audit

工場内での環境事故の発生抑制および環境管理体制強化のため、毎年「環境監査」を実施しています。各工場を書類と現場巡視で監査することで、環境の保全に努めています。



環境監査

化学物質使用の適正化の推進

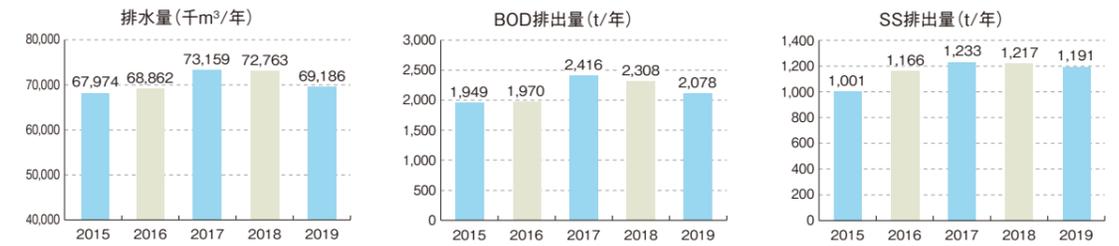
Promoting Optimization of Chemical Substance Use

中越パルプ工業では、生産活動に伴う環境負荷を把握し、環境への影響を最小限にする取り組みをしています。



排水中環境負荷化学物質

Environmental Load Chemical Substances in Drainage



紙・パルプの製造に伴い発生する排水の管理については、工場内に設置されている排水処理施設において薬品や微生物を用いて環境負荷の低減に努めています。

排出ガス中環境負荷化学物質

Environmental Load Chemical Substances in Exhaust Gas



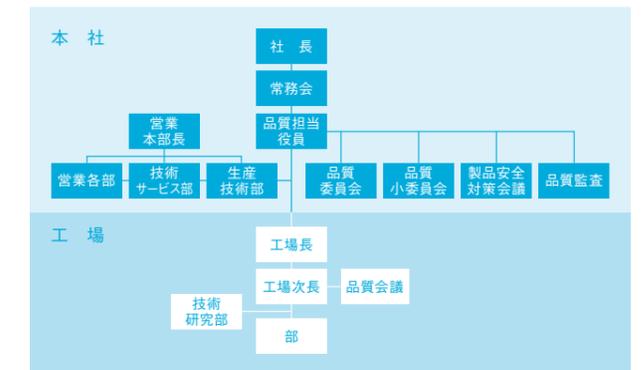
ボイラ、廃棄物焼却炉などにおける燃料の燃焼により発生する化学物質のNOxやSOx、ばいじんの排出量低減については、脱硝・脱硫設備、集じん設備などの構造による対策を行っています。

製品安全の取り組み

Product Safety Efforts

お客様からの情報や品質課題への迅速な対応および安心して使用いただける製品の提供に努めるため、社長をトップとする品質管理体制を設け、化審法、食品衛生法、PRTR法などの法令遵守、規格・規定に基づき、製品の安全性の検証、管理を行っています。

中越パルプ工業 品質管理体制図



主な取り組み内容

- 月1回の品質会議の実施
- 食品用途製品について食品用途製品管理規則を制定
- 社内監査チームによる定期的な品質監査の実施
- 製品の衛生管理を図るために防虫委員会を設置

生物多様性保全の取り組み

Efforts Towards Conservation of Biodiversity

中越パルプ工業は、紙・パルプの原材料である木材を利用しており、森林の恩恵を大きく受けています。社会的責任の下、尾瀬の木道ペーパーをはじめとした森林資源の有効活用や社有林「中パの森」を開設し、行政機関と連携して森林資源・生物多様性の保全について理解を深めていただく環境教育に取り組んでいます。



尾瀬の木道ペーパー

Oze Tree Path Paper

尾瀬国立公園は、群馬、福島、新潟、栃木の4県に隣接する本州最大の湿原です。ミズバショウの他、珍しい高山植物が生育し、四季折々の景色は人々を魅了してやみません。貴重な自然とハイカーの安全を守るために設置されている「木道」は、約10年周期で毎年約2kmの架け替え工事を行っています。中越パルプ工業では、歩道としての役割を終えた木道を製紙原料として買い取り、「尾瀬の木道ペーパー」として再生し、有効活用を続けています。



自然環境とハイカーを守る木道



集められた尾瀬の木道

社有林「中パの森」で自然体験学習会を開催

Studying Activities in the Natural Environment of Chuetsu Pulp & Paper's Forest Grounds

富山県、高岡市と共同で、県内の小学校を対象に毎年開催しています。児童たちは、森林を整備する作業として枝打ちや間伐を見学します。実際に大きな木が伐採されると、大きな歓声があがります。また、森を歩きながらチェックポイントでミッションにチャレンジするオリエンテーリングも行います。木の年輪を数えたり、葉の葉脈を紙に写し取るなどして、森の恵みを体感できます。



枝打ちの様子



熱心に年輪を数える様子



枝打ちした木を運ぶ児童

子どもたちへの環境教室

Environmental Classrooms for Children

高岡市役所、射水市役所と共同で、市内の保育園を対象に環境教育を行っています。「回収された年賀はがきがどのように紙に再生されるのか」をテーマに、クイズを交えながら分かりやすく説明しています。集めてもらった年賀はがきは工場内で再生し、園児たちにノートやコピー用紙としてプレゼントしています。自分たちの身の回りにリサイクルできるものがたくさんあることやリサイクルの大切さに、小さい頃から関心を持ってもらいたいと思っています。



紙で作った駒をうれしそうに持つ園児たち

川内工場 工場見学

Sendai Factory Tour

子どもたちが楽しみながら仕事の仕組みを学ぶ、職業体験型のテーマパーク「キッザニア」監修のもと、薩摩川内市の企業を中心とした職業体験イベントが開催されました。川内工場も「紙づくりのお仕事」として体験プログラムを用意し、「新入社員」として参加した子どもたちは、工程を学びながら実際に紙づくりを体験してもらいました。



紙づくりを体験する子供たち

毎年、工場周辺の小学校を中心に工場見学や出前授業を実施しています。小学3年生で配布される地域学習の教材には、紙をつくる工場として川内工場が掲載されていることから、工場見学や出前授業を通して紙や環境に対する理解を深め、工場がより身近な存在に感じてもらえるよう努めています。



工場見学の様子

従業員コラム 里山・里海巡り

Employee Column: Visiting Satoyama and Satoumi

中越パルプ工業の従業員が、普段の生活や業務を通して里山や自然と関わる中で感じたことをレポートします。



粟屋 正充
Masamitsu Awaya
生産本部 二塚製造部
動力課 用排水係

伝えたい自然との共生と故郷

Expressing My Feelings About My Hometown and the Symbiosis with Nature

二塚製造部から車で約40分ほど、私の住む氷見市上庄地域は、上庄川周辺の平地に水田が広がり、背部は山々の緑に囲まれた自然豊かな場所です。

古くから石川県能登方面へとつながる重要な地域でもあり、古代より越中と能登を結ぶ白ヶ峰往来が通る道があったようで、私の自宅の裏山にも上杉方の家臣が番城として使った山城があったと聞いています。現在でも能越自動車道氷見ICから、石川県のと里山海道千里浜ICに直結する国道415号線があり、観光シーズンには多くの車で混雑することから、道路のバイパス化工事が進められていますが、残念ながら多くの観光者の方々が立ち止まって魅了されるような観光スポットはありません。しかし、自然に恵まれたこの地域は、春には水田でカエルの鳴き声が響き始め、山ではミョウガ、タケノコ、ミツバなどの山菜が採れます。夏には田や川沿いで蜚が舞い、秋にはトンボが自由に飛び回り鈴虫が秋の訪れを知らせ、季節の移り変わりを五感で感じることができる里山です。私が小学生時代の頃は、この自然の恩恵を受け、学校行事として田植えや稲刈り体験があり、秋には山で栗拾いを行い、休みの日には上庄川で魚釣りをした楽しい思い出があります。

この地域は、今も私にとって変わらない自然豊かな

ふるさとして、農業の後継者や高齢化の問題が表面化しています。山間部沿いの畑では徐々に荒廃地が増えて、昔あった山道は手入れをする人が徐々に減り、草や木々に閉ざされて通れなくなった箇所がいくつも見られます。またイノシシ被害についても深刻で、田畑に現れては作物を荒らす厄介者です。私自身も自宅裏の山で枝打ち作業中に遭遇したことがあり、山へ立ち入るには気が引けるようになりました。イノシシ対策として、山と水田の境に電気柵が設置され、畑の一部には捕獲用の罠も仕掛けられるようになりました。森林組合でも山林整備事業に合わせ、間伐作業も実施している他、個人での除草作業などでイノシシの行動範囲を抑制する努力が続いています。

現在の状況を支えているのは、私よりも元気な地域の70代・80代の方々であり、多くの参加によって何とか成り立っています。

このように私の故郷は、日々多くの方々による大変な努力で、美しい田畑や里山が守られています。今、少子高齢化で農業については、変化を迫られる時代ではありますが、後世となる私たちの子供たちへ、自然との共存についての重要性を伝えることができるよう、努めていきたいと思っています。

森と人との関わりを考える

Thinking About the Relationship Between Man and Forest



自然体験学習会の参加者で記念撮影



児童と共にオリエンテーリングを行う筆者

私が生まれ育った氷見市は富山県の北西部、能登半島の東側の付け根部分に位置しています。日本海側有数の氷見漁港を有し、氷見の寒ブリをはじめとした海の幸が有名ですが、豊かな里山にも恵まれており、自然豊かなところでもあります。小さな頃から自然に触れる機会も多く、父と海釣りや祖母と森でアケビや栗を取った思い出があります。

3年前に高校を卒業して入社し、資源対策本部原材料部の国内材担当となり、北信越地方を中心に製紙原料となる木材チップを調達しています。チップセンターや製材所を訪問し、チップの生産状況や原木の集荷状況について情報を集めるのが主な業務になりますが、その関係で原木を伐採する現場に立ち会うこともあります。実際に森へ行くと、特に奥山では伐採されずに放置された木や竹が成長しすぎて荒廃し、人や動物までもが立ち入れない状態になっている所が多くあります。私たち人間が森との関わりをなくし、森の恵みを活用しないようになった結果であると感じています。いまだに「木を切ることは悪いこと」「紙は木を使うから環境に悪い」という認識が多く、残念に思います。

こうした森林を取り巻く状況の中で、普段の業務が少しでも力になり、幼少の頃に遊びに行きたければ元気な森が増えてくれたら嬉しいと思うようになりました。そのため、

原材料部の取り組みに積極的に関わっています。本州最大の湿原である尾瀬の自然保護のために設置された木道を更新時に回収し、製紙用チップとして活用する「尾瀬の木道ペーパー」。日本最大級の野外音楽フェスであるフジロックと協力し、開催地の新潟県湯沢町周辺の間伐材をクレジットで最大限活用した「フジロックペーパー」。「かぐやの竹利用応援事業」では、竹林整備ボランティアへの補助を行い、伐採された竹材を無償で引き取る「かぐやの竹船号」を運行しています。どの活動も利益は少なく、手間がかかるものばかりですが、これらの活動を将来へつないでいくことが自分の使命だと感じています。

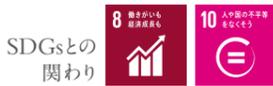
また富山県内の小学生を対象に、社有林「中パの森」で毎年開催している自然体験学習会では、子供たちへ森に関する正しい知識や遊ぶ楽しさを伝えています。森の中で行うオリエンテーリングでは、植物の匂いを感じたり、踏みしめた落ち葉の感触や真下から見上げた木の大きさや木漏れ日を見たりして、森の良さを体感してほしいと思います。その他、間伐や枝打ちなど森を整備する作業も見学してもらいます。富山県の子供たちは森を目にする機会が多いと思いますが、本物の森の中に入り、自然を感じる機会は減ってきていると感じます。こうした活動を通して、私たち人間が森とどのように関わっていけばよいかを考えるきっかけになればと思います。



働きやすさと個人の能力を 発揮する環境を整える取り組み

Creating a Work-friendly Environment Where Individuality Can Flourish

中越パルプ工業グループでは、従業員一人ひとりが個々の能力を発揮し、働き甲斐と活力ある風通しの良い風土づくりに努めています。



働きやすさと個人の能力 Work Friendly and Personal Ability

一日の仕事を終えて「充実した一日だった」と振り返ることができれば、社会人としてこの上ない喜びです。しっかりと食事をとることはもちろんのこと、規則正しい生活を送り、十分な睡眠をとることが欠かせません。当社では、2008年に代表取締役社長による健康宣言をスタート。従業員が活力をもって安心して働き、組織の活性化につながるように、以下の体制で「健康経営」に取り組んでいます。



当社では、組合員の1カ月の時間外労働を、法定時間(45時間)を下回る35時間以下とする労使協定を労働組合と取り交わし、過重労働の防止に努めています。その結果、当社の年間総実労働時間数は、全国平均(2,000時間2019年経団連調べ)を下回っています。

他にも、各工場では社内食堂を運営しており、食事を通じて従業員の体調管理をサポートしています。高岡工場ではカフェテリア方式を採用し、従業員各自でその日の体調や活動に応じて、主菜や副菜を自由に組み合わせ、ご飯の量も調整しながら食事をしています。社内食堂が従業員のいこいの場となるように、より一層の充実を図っていきます。

直近3年間の年間実労働時間(組合員)推移について (H)

年度	2017	2018	2019
所定内実労働時間	1,702	1,705	1,708
時間外労働時間	237	223	212
計	1,939	1,928	1,920

年間労働時間推移



年次有給休暇取得状況 (組合員)について

Status for the Acquisition of Annual Paid Leave (Union Members)

年次有給休暇の取得率は近年80%近くで推移しています。従業員が互いに協力しながら、交替で休むように努めており、全国平均(52.4% 2018年厚労省調べ)を大幅に上回る取得率となりました。仕事において個人の能力を十二分に発揮するために、家族と過ごす時間を楽しむ、趣味を満喫するなどプライベートの時間を大切にすることで普段の疲れをリセットし、休日とは別に「年次有給休暇」をとることは必要不可欠です。休暇取得を奨励し、今後も休暇を取得しやすい環境づくりを進めていきます。

年休消化率(%)

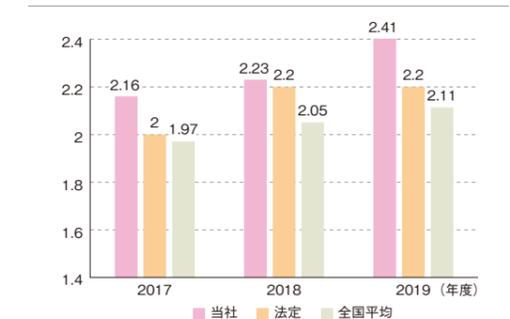


障がい者雇用状況に ついて

Employment Status of Persons with Disabilities

2019年度の障がい者雇用率は法定の雇用人数を上回る2.41%となり、法定雇用率を達成しました。2019年4月からは、社員区分転換制度を導入しており、一定の条件を満たした障がい者を所属上長が推薦して会社が認めた場合、正社員として採用しています。障がいのある方が、安心して長く働くことができるように、今後も職場環境の改善に努めていきます。

障がい者雇用率(%)



健康経営優良法人に 認定されました

Earned Recognition as
Healthy Management Excellence Corporation

これまでの従業員に向けた健康づくりの取り組みが評価され、経済産業省と日本健康会議が共同で実施する「健康経営優良法人2020(大規模法人部門)」に認定されました。



地域との共生

Symbiosis with the Local Communities

地域に密着した社会貢献、環境活動を積極的に行っています。



川内大綱引保存会より 感謝状授与

Received Letter of Appreciation From
the Preservation Association of Sendai Ootsunahiki

全長365m、重さ7tにもおよぶ大綱を約3,000人の男たちが引き合い、中央付近では激しく体をぶつけながら攻防する薩摩川内市の伝統行事「川内大綱引」。420年目を迎えて開催された祝賀会にて、長年にわたり伝統行事の発展に寄与した功績が称えられ、感謝状が授与されました。



川内大綱引で使われる「ダン木」で作られた感謝状

高岡七夕まつりに 薩摩川内市の竹を寄贈

Donating Satsumasendai City's
Bamboo for the Takaoka Tanabata Festival

高岡七夕まつりに、工場のある薩摩川内市から切り出した孟宗竹を寄贈しています。七夕まつりへの竹の提供は、2010年に本社機能を高岡市に移転したことを機にスタートし、毎年寄贈を続けています。また、市民の方が自由に短冊に願いごとを書いて、飾ることができる願い短冊コーナーでは、当社の竹紙短冊6,000枚が採用されました。



竹紙の短冊に願いを書く市民の方々

桜川清掃活動

Sakuragawa Cleaning

毎年3月末に、二塚製造部の工場排水を放流している「桜川」の清掃活動を実施しています。高岡地区で勤務する社員有志が参加し、川岸の壁面や川底の清掃に汗を流しています。今後も継続的に活動を続け、地域の方々に信頼される企業となるよう、努力していきます。



清掃に汗を流す社員有志

ステークホルダーとの対話

Talks with Stakeholders

積極的な対話と情報公開で、風通しの良い関係づくりに努めています。

中越パルプ工業グループの事業活動は、お客さま・地域の皆さま・従業員・取引先・株主・投資家のさまざまな立場の方々に支えられて成り立っています。中越パルプ工業グループでは、皆さまと良好なコミュニケーションを図りながら、成長していきます。

地域住民の皆さまとの 情報交換

Exchanging Information With
Local Residents

工場の近隣自治会へモニターを依頼し、工場操業に関するアンケートなどにご協力をいただいています。また、年1回の地域モニター懇談会を実施し、忌憚のないご意見や近隣地区の貴重な情報をいただいています。モニターの皆さまからの疑問や不安など、生の声に真摯におこたえすることに努め、地域住民の皆さまとの強固な関係の構築を心がけています。

ステークホルダーとの対話を通し、工場から発生する臭気、大気、騒音などの異常をいち早く察知し、設備改善や環境保全を進めるとともに、近隣地区の皆さまにご迷惑がかからないよう、日々の安定操業に取り組んでいきます。



地域モニター懇談会の様子

工場見学を通しての対話

Factory Tour and Communication

地域の皆さまやお客さまに工場運営や製品のアピールを行う場として、工場見学を随時受け入れています。この工場見学を通して、製品紹介はもちろんのこと、当社が取り組んでいる地域貢献、社会貢献や環境活動などの取り組みも紹介し「中ぱらしさ」へのご理解を深めていただいています。



能町児童クラブの工場見学会

財務・非財務データ推移

Financial/Non Financial Data

中越パルプ工業株式会社および連結子会社

財務データ推移 Changes in Financial Data

項目	単位	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
売上高	百万円	99,927	93,882	94,824	96,716	95,140
営業利益	百万円	1,413	1,489	△ 1,242	△ 397	2,057
経常利益	百万円	1,319	1,397	△ 1,293	121	1,985
親会社株主に帰属する当期純利益	百万円	162	1,255	△ 5,206	721	919
総資産額	百万円	132,784	130,539	126,064	123,646	120,833
純資産額	百万円	53,231	54,808	49,276	48,461	48,464
自己資本比率	%	40.1	42.0	39.1	39.2	40.1
自己資本利益率	%	0.3	2.3	-	1.5	1.9
※1株当たり純利益	円	12.41	94.03	△ 389.96	54.04	68.85
※1株当たり純資産額	円	3,986.36	4,104.65	3,690.53	3,625.99	3,626.47
※1株当たり配当金	円	50.00	50.00	50.00	50.00	50.00
設備投資額	百万円	11,521	5,315	4,779	4,230	6,019
減価償却費	百万円	8,855	9,021	8,836	7,979	6,980
研究開発費	百万円	390	416	388	397	465
営業活動によるキャッシュ・フロー	百万円	9,514	13,179	7,413	6,320	8,344
投資活動によるキャッシュ・フロー	百万円	△ 13,142	△ 10,577	△ 7,568	△ 3,061	△ 4,651
財務活動によるキャッシュ・フロー	百万円	4,469	△ 2,844	△ 1,451	△ 2,099	△ 2,387
従業員数	人	1,657	1,452	1,444	1,412	1,422

※ 2017年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っています
2015年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純利益金額・1株当たり純資産額・1株当たり配当金の算定を行っています

非財務データ推移 Changes in Non Financial Data

項目	単位	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
労働環境						
障がい者雇用率	%	1.85	2.07	2.16	2.23	2.41
労働災害度数率	%	2.38	0.00	0.78	1.60	0.00
環境負荷						
消費エネルギー量	百万 MJ	19,791	20,108	20,196	20,178	19,643
(原油換算エネルギー原単位)	kL/t	0.717	0.697	0.709	0.746	0.740
CO ₂ 排出量	千 t-CO ₂	386	417	376	335	326
(CO ₂ 排出原単位)	t/製品 t	0.531	0.554	0.503	0.480	0.476
製品輸送構成率 貨物自動車		71.6	76.3	79.1	84.8	84.9
船舶	%	6.3	5.9	4.8	5.8	6.5
鉄道		22.1	17.9	16.0	9.4	8.6
資源利用						
水使用量	m ³	70,123	71,146	74,219	73,083	70,038
古紙使用量	千 t	137	150	145	151	122
植林面積	ha	2,203	2,203	2,096	2,072	2,058
(CO ₂ 固定量)	千 t-CO ₂	33	33	28	28	28

SDGsに関する取り組み

Efforts for Sustainable Development Goals

2015年9月、国連本部で開催された「国連持続可能な開発サミット」において、193の加盟国の全会一致で「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されSDGs(持続可能な開発目標)が掲げられました。中越パルプ工業グループは事業活動を通じ、SDGsのゴールに向けた様々な取り組みを展開しています。



SDGsは、持続可能な社会をつくることを目指し、世界が抱える問題を17の目標と169のターゲットに整理したものです。17の目標には貧困問題、気候変動や資源エネルギー、都市問題、地域間・国内格差など2030年までの達成に向けて世界が一致して取り組むべきビジョンと課題が網羅されています。

主な取り組み一覧表

List of Main Activities

SDGs	中越パルプ工業グループの主な取り組み	関連ターゲット	関連ページ
3	有害化学物質、並びに大気、水質および土壌の汚染を生じさせない ・環境規制値の遵守	3.9	P.30-31
4	適切かつ効果的な学習成果をもたらす手助けとなるような教育を行う。 ・出前授業、工場見学を行い、森の公益的機能や環境保全への取り組みを紹介。	4.1 4.2	P.32-33
6	適切な森林管理により、森林の機能を良好に維持管理し、水に関連する生態系の保護を行う。 ・生物多様性保全の取り組み	6.6	P.26-27 P.32-33
7	再生可能エネルギーの推進 環境負荷の低いクリーンエネルギー ・再生可能エネルギーの利用向上	7.a	P.25
8	全ての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進する。 ・「健康経営」の取り組み	8.8	P.36-37
9	資源利用効率の向上とクリーン技術および環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。 ・中期3ヶ年計画「フォワード304」	9.4	P.10-12 P.17-19 P.25-28
10	状況に関わりなく、全ての人々の能力強化および社会的な包含を促進する。 ・働きやすさと個人の能力を発揮する環境整備	10.2	P.36-37

SDGs	中越パルプ工業グループの主な取り組み	関連ターゲット	関連ページ
11	大気、水質および廃棄物の管理に特別な注意を払い、環境上の悪影響を軽減する。 ・環境管理体制の強化 地域に対して社会、環境面における良好なつながりを支援する。 ・地域に密着した社会貢献、環境活動	11.6 11.a	P.29-30 P.38
12	古紙の利用、原料歩留まりの向上、PRTR化学物質の把握と代替 ・古紙利用の促進、古紙配合の適正化 大気、水質、土壌への排出削減 廃棄物の削減および有効利用の推進 ・ゼロエミッションの達成	12.4 12.5	P.28-29 P.31
13	気候変動の影響軽減。 ・化石燃料使用量およびCO ₂ 排出量の削減 ・化石燃料から再生可能エネルギー、廃棄物エネルギーへの転換を積極的に進行。	13.3	P.25
14	海洋ゴミや富栄養化を含む海洋汚染防止 ・環境負荷量の低減	14.1	P.31
15	森林の持続可能な経営の実施を促進し、森林減少の阻止につなげる。 ・国内間伐認証材の使用推進 ・FSC®およびPEFC認証材の活用 ・竹の利用推進	15.2	P.17-19 P.26-27
16	対症的、包摂的、参加型および代表的な意思決定を確保する。 ・コーポレート・ガバナンス ・対話の機会の設定	16.7	P.22-23 P.39
17	効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを推進する。 ・地域との共生 ・ステークホルダーとの対話	17.17	P.22-23 P.38-39

SDGsに関する取り組み

会社概要

Company Profile

商号	中越パルプ工業株式会社 Chuetsu Pulp & Paper Co., Ltd.
東京本社所在地	東京都中央区銀座 2-10-6
高岡本社所在地	富山県高岡市米島 282
創業	1947年2月20日
代表	代表取締役社長 植松 久
資本金	188億64百万円(2020年3月31日現在)
主な事業内容	紙(印刷・情報用紙、包装紙、特殊加工紙、新聞用紙など)・ パルプの製造販売、売電事業

■ 編集方針について

本報告書は、中越パルプ工業グループの中期3ヶ年計画「フォワード304」を中心に、持続可能な社会を実現するためのビジョンをすべてのステークホルダーのみなさまにわかりやすく伝えることを目的に編集しています。編集にあたっては、IIRC「国際統合報告フレームワーク」、ISO26000などを参考にしています。

● 数値データ対象期間

本報告書は2019年度の実績を基に記載しています。但し、一部2020年4月以降の情報も含まれます。

● 報告対象範囲

本報告書の対象範囲は、中越パルプ工業株式会社およびグループ会社です。

● 対象分野

本報告書には、中越パルプ工業グループの環境的側面、社会的側面、経済的側面を掲載しています。

● 将来見通しに関する注意事項

本報告書に記載されている事業に関する現在の計画や展望、業績見通し等は、資料作成時点で入手可能な情報に基づき、中越パルプ工業グループが判断した将来見通しが含まれています。実際の業績等は、事業に及ぼすリスクや様々な不確定要素により、大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

■ ウェブサイト ▶ <http://www.chuetsu-pulp.co.jp>

本書に関する
お問合せ先

中越パルプ工業株式会社 経営管理本部 総務人事部
〒933-8533 富山県高岡市米島 282
TEL. 0766-26-2401 FAX. 0766-24-0020

事業所一覧

Locations and Facilities

■ 本社

東京本社
〒104-8124
東京都中央区銀座 2-10-6 TEL 03-3544-1524

高岡本社
〒933-8533
富山県高岡市米島 282 TEL 0766-26-2401

■ 工場

川内工場
〒895-8540
鹿児島県薩摩川内市宮内町 1-26 TEL 0996-22-2211

高岡工場
〒933-8533
富山県高岡市米島 282 TEL 0766-26-2401

生産本部二塚製造部
〒933-8526
富山県高岡市二塚 3288 TEL 0766-28-6600

■ 営業支社・営業所

大阪営業支社
〒550-0001
大阪府大阪市西区土佐堀 1-3-7 肥後橋シミズビル 10階
TEL 06-6441-7151

名古屋営業所
〒460-0003
愛知県名古屋市中区錦 1-8-8 いちご錦ファーストビル 4階
TEL 052-221-9131

福岡営業所
〒812-0011
福岡県福岡市博多区博多駅前 3-19-5 博多石川ビル 6階
TEL 092-411-4962

北陸営業所
〒933-8533
富山県高岡市米島 282 TEL 0766-26-2470



■ グループ会社

- 紙・パルプ製造事業
三善製紙株式会社
- その他の事業
株式会社文運堂
中越緑化株式会社
中越物産株式会社
中越ロジスティクス株式会社
中越テクノ株式会社
共友商事株式会社
中越エコプロダクツ株式会社
- 持分法適用会社
中越パッケージ株式会社
中部紙工株式会社
王子製袋株式会社
王子包装(上海)有限公司
Japan Paper Technology(Viet Nam)Co., Ltd.
Japan Paper Technology Dong Nai(VN)Co., Ltd.
- その他関係会社
中越パルプ木材株式会社
九州紙管株式会社
石川紙工株式会社
有限会社南薩緑化センター
O&C アイボリーボード株式会社
OCM ファイバートレーディング株式会社
O&C ペーパーバッグホールディングス株式会社
中央紙工株式会社
株式会社楠見製袋所
エヌシー共同開発株式会社
Acacia Afforestation Asia Co., Ltd.



高岡工場

二塚製造部

川内工場